

## B737 の想い出 その 1 スタンプラリー

荒岡 衛

ボーイング 737(以下 B737)は 1967 年 4 月に初飛行して以降、延べ 10,000 機以上が生産され、2025 年に至ってもその発展型が生産され続けているベストセラー機である。最近ではその最新型 B737-MAX8 が操縦特性補助システム(MCAS)の不具合に起因する墜落事故を起こし一時運航、生産の停止を余儀なくされたりした。

それはさておき全日空は初期の-200 から-500,-700,-800 と各型を使用し、MAX8 も導入予定である。その中で少し変わった機体が 2 機あった。それは海外路線、とりわけビジネス路線の拡大を目指して 2007 年に導入されたビジネス専用機 B737-781ER である。同じ機種の国内線用機は 136 席であるのに対し、1 機はビジネス 24 席、エコノミー 24 席の計 48 席、もう 1 機は全部ビジネスで 38 席というぜいたくな座席配置だ。

初便は新たに開設された 3 月 25 日の名古屋—広州線 NH115 便だった。珍しい機体なので初便に乗りたいけれど、正規料金はエコノミーでも片道 10 万円ほどかかる。それでマイルで乗ろうとしたらキャンセル待ちになり、10 日前にようやく入手できた。就航日は日曜で翌日休暇を取りにくかったからトン帰り(折返し便搭乗)することにした。当時長崎に単身赴任中だったので前日に名古屋へ移動、空港隣接ホテルで 1 泊、8:30 発の便に搭乗した。搭乗者はビジネス 18 人、エコノミー 15 人で私を含め初便に乗ることが目的だったマニアは 6 人いた。そしてトン帰りした人は他に 2 人いた。

広州の滞在時間はダイア上で 70 分しかない。名古屋を定刻に出発したが西風が強くて到着は 37 分遅れた。予め連絡してあったので降機後、全日空の現地係員が 3 人に着きつきりで入国検査(検疫、旅券、税関)、出国検査(旅券、税関)でスタンプをもらうのを先導してくれたから降機後 44 分で再乗機できた。これは私の外国滞在最短記録である。